

# Thailand

## タイにおける 観光地マネジメント



### 🌐 視察行程

日程	活動内容	
9月28日(日)	タイ入国	—
9月29日(月)	視察・ヒアリング	ベッチャブリー市民活動団体・ベッチャブリー県/ベッチャブリー、アンパワー
9月30日(火)	視察・ヒアリング	JNTOバンコク/バンコク市内
10月1日(水)	視察・ヒアリング	タイ国政府観光庁/バンコク市内
10月2日(木)	ヒアリング	アサンプシオン大学/DASTA/タマサート大学
10月3日(金)	ヒアリング	宿泊施設(2施設)
10月4日(土)	視察・タイ出国	パトンビーチ・カマラビーチ/翌5日(日) 帰国

### 🌐 視察の背景と目的

世界的な観光客数の増大にともない、観光の量の拡大を、地域経済への波及効果や住民の満足度といった質の向上へどう結びつけるか、また、その恩恵をいかに地方へ広げていくかは、持続可能な観光の実現という観点からも、各国共通の重要な課題となりつつある。

タイは、豊富な観光資源と高いホスピタリティを背景に、アジア有数の観光大国として国家主導で早くから観光客の受け入れを進めてきた国である。その過程で、観光客の地域分散や観光消費額の向上、文化遺産の保全と活用といった、日本の現状にも通じる課題に戦略的に取り組み、多様な事例を蓄積してきた。また、過去に直面した大規模災害からの観光復興プロセスは、予測不能なリスクに対する観光地のレジリエンスを高めるうえで、貴重な知見を提供している。量から質への転換と、観光を通じた持続的な地域発展を追求するアジアの先進事例から学ぶべく、タイへの視察を行った。



## 各研究員の視座からの知見・示唆

### 国内旅行者の地方分散

タイでは多くの外国人旅行者が訪れており、そのことが国内旅行者の動向にも影響を及ぼしている。政府は人気都市の混雑緩和と観光収入の地方分散を目的に、2000年代半ばから各種施策を展開してきた。

具体的には、地域産品や体験プログラムによるコミュニティ基盤の強化、プロモーションによる動機創出、直接的な価格インセンティブを組み合わせる展開している。現地での意見交換からは、混雑や高価格といった市場環境の変化に伴う結果的な分散と、政府施策がその動きを後押しする意図的な分散が並行して進んでいる実態が確認された。

日本への示唆としては、まず誰の分散を促すかを明確にする必要がある。そのためには、市場で生じている国内客・インバウンド客のシフトや分散パターンを把握することが前提となる。どの需要を、どの目的で、どの地域に振り向けるかを戦略的に整理することが求められる。



▲ 意見交換の様子



### 観光の高付加価値化と域外流出抑制の取り組み

パンデミック後、観光は量から質へ転換しつつある一方、域外流出により観光支出が域内で循環せず、経済波及効果が限定される点が課題である。

タイでは、持続的観光特別地域開発管理機構 (Designated Areas for Sustainable Tourism Administration : DASTA) が9つの指定地域において、住民主導で地域資源に根ざした体験を高付加価値化していること (例：バンカチャオの予約制ポート、ポー・スアックの工房体験等) や、地元優先調達や権利保護等の仕組みを通じ、域外流出の抑制を図っている点が明らかになった。タイ国政府観光庁 (Tourism Authority of Thailand : TAT) は、表彰・国際認証の活用、商談会の開催、低炭素型観光 (コ・マーク島等) の訴求を通じて、商品・地域の販路拡大を支援している。

以上より、国際基準を活用して制度と現場をつなぎ、地域内調達の促進・指標化を図ることは、日本の施策検討においても有用な示唆となり得ることが示された。

▲ 9つの持続可能な観光指定地域 (DASTA提供資料)

### タイ・プーケットにおける災害に対する取り組み

2004年のインド洋大津波によって、タイ南部のリゾート観光地であるプーケットも大きな被害を受けた。

20年以上が経過した現在、ヒアリングを行ったプーケットの宿泊施設2件は、双方、災害対策に意欲的に取り組んでいる。そこには、顧客の信頼を勝ち取るというブランディングの側面が感じられた。また、世界的チェーンの強みとして、ベースとなる計画やマニュアルを、所在地ごとのリスクに応じてアレンジしていることがわかった。これらはプーケット全域の状況ではないものの、ヒアリングや視察から共通課題として、インフラの不足、継続した対策の難しさの2点が示唆された。

加えて、生活文化による災害に関する理解度の違いも再確認した。インバウンド拡大の時勢において、観光客の自助だけでなく、観光関連事業者も災害に備えることは、改めて重要と考える。



▲ バトンビーチの津波警戒標識



▲ 保存されているナン・ヤイの革の人形

### 観光のチカラで復活した無形文化遺産「ナン・ヤイ」に学ぶ

文化財を観光振興や地域活性化に用いる際に、「保存」か「活用」かの議論になることが多い。しかし、この二項対立を越えて、調和を目指す考え方もある。

タイ・ベッチャプリの「ナン・ヤイ」(伝統的影絵芝居) は、一度断絶した無形文化を観光のチカラで復活させた事例である。単に芝居を見せるだけでなく、その芝居に用いる革の人形を作成する体験を商品化し、文化の価値を高めていることや、地域の小中学生が担い手として参画しており、収益はその子供たちの学費の一部にも充てられるという「継承の好循環」が生まれていた。

無形の文化遺産を「どのように活用するか」という短期的な視点から、「観光を活用してどのように継承していくか」という長期的な視点への転換、長期的な伴走支援体制の必要性、観光の成果を経済循環の質で測る発想といった気づきが得られた。

Thailand

タイにおける  
観光地  
マネジメント



# Barcelona

## オーバーツーリズムと向き合う 欧州都市の観光地マネジメント バルセロナ



### 🌐 視察行程

日程	活動内容	
10月4日(土)	スペイン入国	—
10月5日(日)	視察	ゴシック地区&ポルン地区/トルトーザ
10月6日(月)	視察・ヒアリング	エプロ川デルタ自然公園/ベネデス/トルトーザ市街/エンカンス市場/バルセロナ市
10月7日(火)	視察	モダニズム・ルート(カサ・パトリヨ、サグラダ・ファミリア)/グラシア通り周辺
10月8日(水)	視察・ヒアリング	シウタ・ヴェリャ地区/グロリエス地区/バルセロナホテル協会/民泊オーナー
10月9日(木)	視察・ヒアリング	バルセロナータ地区/モンジュイックの丘/カタルーニャ州政府観光局/バルセロナ大学
10月10日(金)	視察・ヒアリング	バルセロナ大学ホテル観光学院/グエル公園/旧市街
10月11日(土)	スペイン出国	—

### 🌐 視察の背景と目的

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、国際的な観光客の移動が回復基調に転じた。これを受け、日本国内の一部地域においても、パンデミック以前に問題視されていた観光客の急増に起因する諸課題が再び顕在化しつつある。

こうした背景のもと、当財団では、日本に先行してオーバーツーリズム問題に直面してきた欧州主要都市の政策動向について、継続的な調査研究を推進している。、『観光文化』264号、265号参照)

バルセロナにおいては観光に対する住民の抗議活動がメディアで象徴的に報じられることが多いが、その裏では観光と住民生活の共存を図るための施策が矢継ぎ早に実行されている。遠く離れた日本から見ていると、真摯に、かつ多角的に取り組みが行われているようにも思えるが、その実態はどうなっているのだろうか。そこで今回の視察先をバルセロナとし、8日間の行程で視察とヒアリングを実施した。



## 各研究員の視座からの知見・示唆

### シビックプライドを育む観光ガバナンス

バルセロナでは1990年代以降観光客数が順調に増加したが、近年、観光客のさらなる誘致は限界と捉える住民の割合が増加する等、住民との関係性は変わりつつある。

2017年に策定した「Plan Estratégico de Turismo 2020」に基づき、住民の生活の質の向上を最優先に据えた政策を推進。住民とのコミュニケーションにおいては、市民が政策や予算の決定に関われる仕組み「decidim.barcelona」、住民が観光施設を無料・割引で利用できる「Gaudir Més」、グエル公園の市民利用時間の確保、観光税を住民に還元する基金「Fons ReCiutat」、住民専用の自転車シェアリングシステム「Bicing」、市内を巡回しながらトラブルを防ぐ「Agents Cívics」等が実施されている。また、人流集中エリア(EGA)を特定し、重点的に対策を実施している。

地域にとってのパラダイム・シフトを的確に捉え、「批判はある前提で、まずは施策を発表し、実行してみる」という姿勢から学ぶことも多い。



▲旧市街における観光客向け商店の集積

### 観光ジェントリフィケーションへの対応

観光の拡大は地域社会に新たな価値や機会をもたらす一方、土地利用や生活環境の変化を促し、地域の社会的な基盤を揺るがし得る。このような、地域の経済・社会のバランスが変化し元々の住民や商業が入れ替わる現象(=ジェントリフィケーション)の制御は、重要な課題の一つだ。

バルセロナではPEUAT(観光宿泊施設特別都市計画)による宿泊施設開業管理、民泊のライセンス停止等、住民向け賃貸住宅確保のための施策が進められている。また商業分野では、特定業種の集中を防ぐ商業密度制限や市場の商品構成比率を定めるルールが作成され、商業モノカルチャー化に対応している。

このような市場介入は経済活動の自由と度々衝突し、その度に制度は見直されてきた。観光・地域社会の共存のためには、市場原理を制御しつつ、住民の関与を制度内部に位置づけ、政策の正当性を絶えず更新していく政治的技術が求められる。

### 文化遺産の保護と観光への活用の現状

バルセロナの豊かな文化遺産は多くの観光客を惹きつける観光資源となっている一方、一部地域への観光客の集中による生活環境への影響などの課題も抱えている。

そもそもバルセロナ市では、1962年以降歴史的建築物等の目録作成等が行われてきたが、2022年に改めて「バルセロナ、文化遺産都市」が発表され、文化遺産施策の国際的な先進都市としての地位を確立することが謳われた。

文化遺産を観光に活用する取組としては、歴史的建造物や伝統行事の観光資源化、混雑対策としてガウディ建築における予約制の導入、郊外の文化遺産への誘導による分散化などが行われている。カタルーニャ文化遺産目録に登録された建造物等が選定された「バルセロナ・モダニズム・ルート」も、収益化や分散化につながる施策の一つである。文化財の保護と観光への活用の両立、分散化等、多様な目的をもってモダニズム・ルートは運用されている。



▲トルトーザの街とパラドール

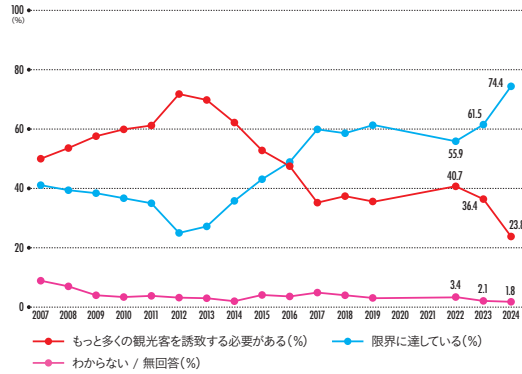
### 観光管理におけるデータ活用と地域分散への取り組み

バルセロナ市は、観光を都市の公益を確保するための重要な政策課題として捉え、観光管理から観光と共に都市を管理する思想への転換を図った。この転換の核心は、データ活用の徹底と観光の恩恵を広げる地域分散という戦略性にある。

データ活用の基盤として設立されたバルセロナ観光観測所(OTB)は、様々なデータの収集・計測・分析を行い、観光政策の透明性確保と課題の管理・調整に寄与している。地域分散もOTBのデータに基づいて示されている観光客の流れの最適化のための戦略の一つである。今回訪れたトルトーザやベネデスも、地域分散のポテンシャルが高い地域である。

このように高度な都市管理の視点を持って、バルセロナはデータ活用、そしてそれを基に戦略の一つとして地域分散に取り組んでいる。

観光客の誘致に対する意識(観光に対する住民意識)



資料:バルセロナ市「Percepció del turisme a Barcelona Del 3 de juny al 21 d'octubre de 2024」を基に作成



▲バルセロナ・モダニズム・ルートに選定された建造物前の路面に埋め込まれているプレート

